

対馬アリラン祭

下町の熱い2日間

「アリラン祭」が、今年も8月5、6日の2日間、厳原港特設会場で観客は延べ3万1千人を記録しました。



江戸時代の大イベントを再現 約500名の朝鮮通信使行列

お祭りの最大の見せ場である朝鮮通信使行列は、6日午後3時過ぎに始まりました。江戸時代、朝鮮国から派遣された外交使節団を再現したこの行列には、韓国側からペギンセ舞踊団や釜山情報女子高校宮中吹打隊などから約100名が参加。日本側と合わせ約500名の参加者がスタート地点の八幡宮神社を出発し、祭会場までの約2kmを進行しました。

を身にまとい、長ラッパやシンバルなどの音頭に合わせて市内を練り歩く賑やかな行列に、沿道の観客も釘付けになっていました。行列がメイン会場に到着すると国書交換式が再現され、正使役の鄭義和氏（朝鮮通信使縁故地議員連盟代表）と宗対馬守役の松村市長が「これからお互いに欺かず、争わず、真実をもつて交わる」とを明記した国書を交換。両国の友好を誓いました。

■朝鮮通信使ひとくちメモ
江戸時代に將軍の代替わりやその他の慶事に際し、李氏朝鮮の国王が江戸幕府に派遣した使節。豊臣秀吉の朝鮮出兵の後、徳川家康は対馬の宗氏を通じて国交回復につとめ、1605年の日韓和約で国交回復。この結果1607年（慶長12年）から1811年（文化8年）までに12回使節が来日した。



国書交換式に出席した日韓の主役

左から朝鮮国副使役李相正氏、釜山広域市東区議会議長、宗対馬守役松村市長、正使役鄭義和氏、雨森芳洲役（樋口貫氏）対馬文化財協会会長



21世紀の日韓こども通信使
50名が対馬で交流
— 朝鮮通信使行列にも参加 —



行列に参加し行進することも通信使

日韓の小中学生を対象とした国際交流イベント「21世紀の日韓こども通信使2006」に参加した子どもたち50名が、8月5日から3日間、対馬市で交流を深めました。

このイベントは、朝鮮通信使の友好親善の精神を現代に蘇らせようと奈良県、滋賀県長崎県などで構成する同実行委員会が昨年に引き続いて実施したものです。

両国の子どもたちは、宿泊先の西山寺（厳原町国分）で行われた対面式を済ませた後、朝鮮通信使に関する勉強会、ゲーム大会などの他、対馬歴史民俗資料館や万松院の見学



まつりのオープニングを飾った子ども神輿 8/5

そろいのハッピーを着て「わっしょい、わっしょい」のかけ声が響きました。

演芸の夕べ 8/5・6

舞台が設置された厳原港特設会場では、5、6日の夕方より演芸の夕べが開始され、「歌謡ショー」や演芸、舞踊などさまざまな催し物が披露されました。



まつりの最後は2000発の花火が夜空を彩りました。8/6



【写真上、右から左に】通信使行列でも先頭で演奏を披露した陸自第四音楽隊、一糸乱れめ舞いを披露したベギンセ舞踊団、澄んだ歌声で観衆を魅了したチェウニ歌謡ショー。【写真右】ちびっ子も元氣いっぱいのお遊戯、厳原南保育園児たち。



対面式にて（写真手前の列が日本側参加者）

などを行いました。また、8月6日には対馬アリラン祭での朝鮮通信使行列にも加わりました。

日本側から参加した岡山県の吉川中学校3年生（吉備中央町の森澤貴恵子さん（14歳）は、「近所にキムチを作っている会社があり以前から韓国に興味があったので参加しました。イベントを通して両国の文化や考え方の違いを見つけて、将来の仕事に役立てたい」と抱負を話していました。

対馬での交流を終えた両国のこども通信使は、その後お互いの国を訪問しホームステイなどの体験を行ったあと、奈良で再会を果たしました。

厳原港まつり

異国情緒溢れる城

対馬最大の夏祭「厳原港まつり 対馬アリラン」盛大に開催され、2日間の



舟グロー大会 8/6

12チームが参加し、熱戦が繰り広げられました。優勝は海上自衛隊下対馬警備所